

いし かわ ひで あき
石川栄耀

商店街・盛り場は夜の公園だ！

—産業中心の都市計画から「夜の都市計画」へ—



石川栄耀 (1893 ~ 1955)

写真提供：石川允氏

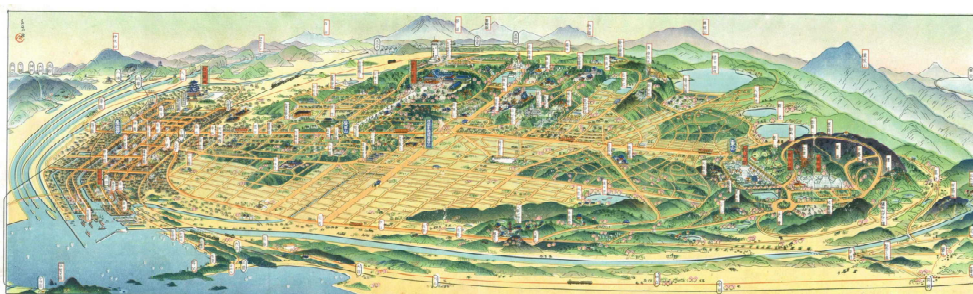
市の中枢部の商業地域、名古屋港を囲みさらに北へ伸びる工業地域、これらを結ぶ街路網と運河網、そして外周部を囲む住居地域(右図参照)。当時、石川らが立案した都市の骨格的構造は、産業都市・名古屋発展の礎となった。当時の都市計画街路の遺産である、現在の桜通り、伏見通り、環状線などは今も名古屋市の交通を支えている。石川は、鉄道と名古屋港を連絡し物流を担った、中川運河と両岸の工業用地の造成も手がけた。

石川は決定された都市計画を、乏しい市の財政の下、土地買収に頼らない土地区画整理の手法によって実現した。こうした石川の仕事を、大岩勇夫市長(当時)は全幅の信頼をもって支えた。

■休日や夜こそが人生本態の時間

石川は1923(大正12)年から1年間、欧米の都市計画調査のため出かけた欧州で、田園都市レッチワースの設計者として知られるイギリスの都市計画家レイモンド・アンウィンから、名古屋の都市計画は「産業そのもの」であり「人生を欠いている」と酷評され衝撃を受ける。

帰国後、田園都市の思想を採り入れた、八事丘陵地や田代地区などの土地区画整理事業を進めたほか、「夜の都市計画」と称して休日や夜こそ重要な時間とし、人々が集い憩う盛り場や商店街作りに取り組んだ。商工会議所を拠点として名古屋都市美研究会を設立し、盛り場の照明の研究、広小路や大須商店街などの祭やイベントの企画、市民による盛り場育成の自主研究会の運営支援などを行った。日本の商店街や盛り場は、人々が語り合い友愛を深める仕掛け・西欧の「広場」に代わるものであり、「夜の公園」だとも言っている。

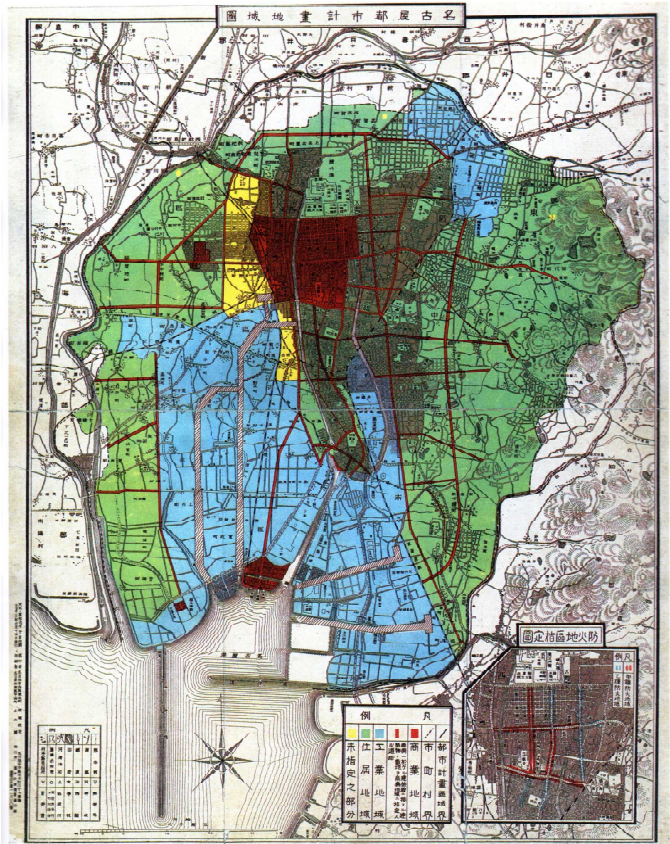


田代土地区画整理組合鳥瞰図

1937年名古屋市田代土地区画整理組合発行 名古屋都市センター所蔵

■産業都市・名古屋発展の礎となった都市計画

現山形県天童市干布ほしののに生まれた石川栄耀(通称:えいよう)は、1918(大正7)年、東京帝国大学土木工学科を卒業。米国貿易会社建築部などを経て、1919年に日本で初めて都市計画法が制定された際、内務省の都市計画技師第一期生となった。1920年に都市計画名古屋地方委員会に赴任、1933(昭和8)年に都市計画東京地方委員会に異動するまでの約14年間に、名古屋における最初の都市計画や土地区画整理事業に幅広い実績を残した。



名古屋都市計画地域図 1924年

出典・『名古屋都市計画史(大正8年~昭和44年)図集編』1999年発行

による盛り場育成の自主研究会の運営支援などを行った。日本の商店街や盛り場は、人々が語り合い友愛を深める仕掛け・西欧の「広場」に代わるものであり、「夜の公園」だとも言っている。

(北原なつ子)